

令和8年（2026年）度事業評価シート

令和 8 年 6 月 30 日

評価対象事業	文観	-	10	文学館大規模修繕事業				☐ 法定受託事務	
所管課	文化観光部 文化課				評価者	文化課長 鋤柄 雅之			
一般	会計	款	55	項	20	目	35		
総合計画上の位置付け	分野名	2-(2)文化			施策の方針名	2-(2)-①文化活動の支援・促進			

1 事業の目的

対象	市民等	意図	老朽化が進む鎌倉文学館の大規模修繕を行い、施設・設備の機能を維持するため
効果	来館者の安全を確保するとともに、歴史的な建築物の恒久的な保存を図る。		

2 事業工程と運営資源配分

☐ 単年度事業 ☒ 終期のある事業 （事業終了予定年度： 令和10 年度） ☐ 単年度繰返

	令和7年度	令和8年度	令和9年度（未定）
事業工程	埋蔵文化財発掘調査等	鎌倉文学館本館改修及び増築棟工事	鎌倉文学館本館改修及び増築棟工事
予算額（千円）	75,203	736,340	
国県支出金		255,782	
地方債		467,100	
その他			
一般財源	75,203	13,458	0
当初人員配置数	1.4	1.7	0.0
人件費（千円）	6,943	9,866	0
事業実績	埋蔵文化財発掘調査等		
決算額（千円）	64,435		
国県支出金			
地方債			
その他			
一般財源	64,435	0	0
人員配置実績数	1.4	0.0	0.0
人件費（千円）	6,765	0	0

3 活動結果（アウトプット）指標

No	活動結果（アウトプット）指標		単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9
	指標名					（上段実績、下段経費（千円））		
活1	実績につながる活動							

活動結果指標の実績に影響を与えた外部要因	
本事業実施に伴う活動結果指標の達成状況に対する評価	・老朽化による再開館に向けた大規模改修工事を実施する事業であるため、指標の設定は馴染まない。

4 成果（活動による直接アウトカム）指標

No	成果（アウトカム）指標の内容	単位	初期値	目標値 目指す方向	R7	R8	R9	関連する活動結果指標No （最大3つ）
成1								

成果指標の実績に影響を与えた外部要因	
本事業実施に伴う成果指標の達成状況に対する評価	・老朽化による再開館に向けた大規模改修工事を実施する事業であるため、指標の設定は馴染まない。
活動結果指標と成果指標結果の比較分析（寄与度）	

5 評価結果

評価	妥当性	事業に対するニーズ	☐ 増えている	☒ 変わらない	☐ 減少している
		事業実施の主体となるべき者	☒ 市	☐ 国・県	☐ 民間事業者 ☐ なし
	有効性	事業の成果	☐ 十分に出ている	☒ 概ね出ている	☐ 出ていない
	効率性	事業費削減余地	☐ ある	☒ なし	
		関連・類似事業との統合	☐ できる	☒ できない	
方向性	公平性	受益者負担	☐ 導入済	☐ 導入予定	☒ 導入できない
	事業内容の方向性	評価実施年度の方向性	⇒ 評価実施翌年度以降の方向性		
		☒ 事業内容は現状通り	☐ ① 事業内容は現状通りとする		
		☐ 事業内容は見直し済	⇒ ☐ ② 事業内容は見直す	☐ 拡大	☐ 縮小 ☐ その他
		☐ 事業を休止又は廃止済	☐ ③ 事業は休止又は廃止する		
方向性	予算規模の方向性	☐ 他事業と統合済	☒ ④ 他事業と統合し、本事業は廃止する	→	文学館管理運営 事業へ統合
		☐ 予算規模は現状維持	☐ ⑤ 予算規模は現状維持とする		
		☒ 予算規模は拡大済	⇒ ☒ ⑥ 予算規模は拡大する		
		☐ 予算規模を縮小済	☐ ⑦ 予算規模は縮小する		

今後の取組方針（見直し方針）	課題への対応		結果	具体的な内容	
	前年度の新たな課題への対応結果		前年度は新たな課題なし		
	活動結果指標や成果指標の達成状況に影響を与える新たな課題		新たに認識された課題はなかった		
	新たな課題に対応するための新規事業の必要性		新たに認識された課題はなかったため検討なし		
	総評	鎌倉文学館の大規模改修工事着工に向けた準備を進めてきたが、入札参加者がなくスケジュール変更を余儀なくされた。令和8年度に再入札を実施し、着実に大規模改修工事を進めるとともに、再開館時の利便施設を含めた施設全体の運営体制について、検討を進める必要がある。			上位施策への寄与度
					A

○ 他市比較・ベンチマーク（県内外自治体や民間団体との比較値）

比較事項									
団体名	鎌倉市	藤沢市	茅ヶ崎市	平塚市	小田原市	横須賀市	葉山町	逗子市	三浦市
他市実績									
当該事業実施に伴う他市比較に関する考え方		大規模修繕事業は、施設ごとの条件が異なる上、修繕内容も年度ごとに大きく変動するため、同一基準による横並びの比較は馴染まないため、ベンチマークは設定しない。							